



大阪《キタ》の古びたアパートで発見された老女の白骨化死体。

平穏そうに見えた下町に突然起きた事件。

その周辺で行き交う様々な国籍・人種・言語の人々の3日間で見えてきたものとは。



桜の花の雷が膨らんで、満開の季節の訪れを誰もが感じている大阪・キタ。

中崎町にある古い木造のアパートで、白骨化した老婦人の死体が発見された。警察は実況見分で、アパートの周りの捜査や関係者へ事情聴取を行っていた。孤独死なのか、または財産絡みの謀殺なのか、いろいろな噂が飛び交っている。

この狭い地域の中では、中国、台湾、韓国の観光客、マレーシアのビジネスマン、ネパール難民、ミャンマー人留学生、ベトナム人技能実習生などの外国人たち、彼らとの日常を共有している日本人たちにも、少なからずちょっとした事件が起きている。

彼らは、まるで交差点で出会う人々のように、深くも浅くもどこかで繋がっているようだ。

事件が終わりを告げる時、彼らには新たな岐路が待ち受けていた。

旅する映画作家リム・カーワイが、
異邦人だからこそ見えてきた日本の深層を
軽やかに切り込む。



北京、香港を経て、現在は大阪を拠点に活動が続いている、中華系マレーシア人リム・カーワイ。彼はカメラ一つその肩に担いで、地元大阪はもちろん、香港やバルカン半島へと単身赴き、ほぼ即興で演出するというスタイルを貫くとてもユニーク、かつ稀有な創作活動が続いている映画作家だ。大阪の生きた都市の息遣いを肌で感じているからこそ見えてくる、異国の地で生き抜く外国人たちの過酷な現実。一方で彼は、孤独や生きづらさを感じている日本人たちにも視線を向けることも忘れない。国籍を超えたバラエティー豊かなキャストが集結しているのも、この映画の大きな魅力の一つ。ツァイ・ミンリャンの申し子、リー・カーションはAVオタクの観光客に。日本からは、千原せいじ、桂雀々ら関西の人気喜劇人を中心に、渡辺真起子、兎丸愛美、尚玄らが参加。アジア9カ国から様々な国籍・言語・人種のキャラクターたちによって紡がれる複雑な背景の物語、圧巻の2時間38分。



公式サイト www.reallylikefilms.com/comeandgo

@comeandgo_LKW

@ReallyLikeFilms

@comeandgo2019

11月19日(金)より、行ったり来たりのロードショー!

全国共通特別鑑賞券発売中(1,500円税込) 行ったり来たりする時に便利なCOME & GO トートバッグ付き(一部の劇場窓口にて・先着順)

03-5468-5551

テアトルシネマグループ

ヒューマントラストシネマ渋谷

ttcg.jp

12月3日(金)~

06-6359-1080

テアトル梅田

ttcg.jp

12月4日(土)~

06-6582-1416

シネ・ヌーヴォ

http://cinemnouveau.com/

12月10日(金)~

075-353-4723

京都シネマ

https://www.kyotocinema.jp

COME
&
GO
カム
アンド
ゴー

A FILM BY LIM KAHWAI
OSAKA • ASIANS • CROSSROAD

COME
&
GO

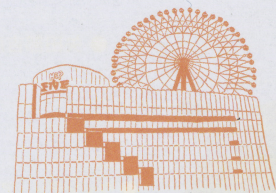


COME
&
GO
カム
アンド
ゴー

A FILM BY LIM KAHWAI
OSAKA • ASIANS • CROSSROAD

中国・香港・台湾・韓国・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・ネパール・日本 —

頭上の機影が鈍い光を放つ大阪の空の下、サバイブするアジア人たちのリアルを、旅する映画監督リム・カーワイが鋭く切り取った、新時代の《ストレンジャー・ザン・パラダイス ~ 菜園より不思議な国ニッポン》。



リム・カーワイ監督作品 [COME & GO カム・アンド・ゴー]

リー・カーション リエン・ビン・ファット J・C・チー モウサム・グルン ナン・トレイシー ゴウジー イ・グアンス デヴィッド・シウ 千原せいじ 渡辺真起子 兎丸愛美 桂雀々 尚玄 望月オーソン 天人純

撮影: 古澤幸一 録音・監音: 松野泉 美術: 藤原通昭 音楽: 渡邊崇 衣裳: 磯井章訓 メイク: 島田幸希/富田北貞 ラインプロデューサー: 友長勇介 プロダクションマネージャー: 濱本敏治 助監督: 神保慶政/島井雄人

エグゼクティブプロデューサー: 毛利英昭 / リム・カーワイ プロデューサー・監督・脚本・編集: リム・カーワイ 制作協力: KANSAI PRESS / 株式会社リンクス / Amanto Films 製作: Cinema Drifters LLC 宣伝: ムービー・アクト・プロジェクト

配給協力: アルミード・キノ・キネマ イラスト: 西川ちより 予告編監督: 斎藤志

〔2020年製作/158分/日本語・英語・韓国語・中国語・ベトナム語・ミャンマー語・ネパール語など/ビスタサイズ/5.1ch/DCP・Blu-ray〕

配給: リアライクフィルムズ + Cinema Drifters

ReallyLikeFilms

Cinema Drifters

www.reallylikefilms.com/comeandgo

いま最も観なくてはならない映画！ 『COME & GO カム・アンド・ゴー』を、 国籍・ジャンルを超えた著名人たちが大絶賛！



COME
&
GO
カム
アンド
ゴー
A FILM BY LIM KAHWAI
OSAKA・ASAKA・CROSSROAD

梅田も道頓堀も映らないが、これが大阪だ。
そこに生息する彼女ら、彼らが真の大阪の住人だ。
そして全てを公平にとらえるカメラ・ポジションが
素晴らしい。ひとつとして欠けるものはなく、
全員が共通で、粒だっている。これが映画の力だ。

● 黒沢清さん [映画監督]

困ったことに、日本には一部の国の人々に対する根拠のない優越感が蔓延しています。
まあ、他の国でもそれはあるのですが、日本は島国のせいかな、より鈍感です。
『COME & GO カム・アンド・ゴー』はそんなことに気づかせてくれるカッコいい映画ですね。
コロナ禍で世の中が息苦しさを増している今、とても重要なテーマだと思います。
日本の中で異邦人である彼ら彼女らが、この映画の中ではどこか魅力的で愛おしくさえ感じるはずですよ。

● 金平茂紀さん [TBS報道局記者・キャスター・ディレクター]

忙し気に立ち去っていく人々。根を下ろすこともなく、どこかへ
消えていってしまう人々。COME & GOは世界のどこにいても
忘れ去られ、置き去りにされてきた人たちが、かりそめの期待をもって
訪れる町の物語だ。摘み取られても、刈り込まれても、またすぐに
芽生えてくる流浪の心。ブレヒトはいっている。「町を愛してはいけない。
町はいつか滅びるから。国を信じてはいけない。国はいつか滅びるから。」

● 四方田犬彦さん [映画史・比較文学研究家]

リムの映画には「映画という仕事」ではなくて「映画という人生」がある。
彼の人生とそこで感じたこと考えたことが作品に結びついている。そういうところが、グッとくる。

● 山本政志さん [映画監督]

アジアの国々では共同体意識が非常に強く、必須ではないにしても、リムは間接的に、
現代生活とグローバル化という概念の背後にあるもの、そしてアジア中に容赦なく拡がっているものに
疑問を投げかけている。最終的には、ささやかで愛らしいジェスチャー、ささやかな共感の印こそが、
私たちを孤独と孤立の冷たい地獄から救う事を教えてくれている。

● トンタット・アンさん [音楽家 / 『ソン・ランの響き』『走れロム』『朝が来る』などの映画音楽も手がける]

世界各地を漂流しながら映画を作ってきたリム・カーワイが、根城とする最も身近な場所、大阪・キタに腰を据えて撮った。
けれど、そこに現前するのは世界視野のスケール感と多様性だ。リムだからこそ撮れた大阪物語。

● 陣越創三さん [映画評論家・映画監督・脚本家]

アジアを股にかけ、大阪を知り尽くしたリム・カーワイ監督にしか撮ることの出来ない、唯一無二の作品。
日本で暮らす外国人の実態を、楽しく、厳しく、優しく描く、日本映画史に残すべき重要作であり、
心から愛すべき作品だ。

● 矢田部吉彦さん [前東京国際映画祭ディレクター]

映画のトーンは陽気だが、必ずしも住民たちに親切ではない都市の、興味深く質感のある
肖像画をあぶり出すことに成功している。

● ウェンディ・アイズキン [スクリーン・インテリゲンシャル誌 / UK]

様々なバックボーンにある登場人物たちの漂うような儚さと交流を見事に表現している。
結末を知った今、もう一度観たいと願っている。

● クリストファー・ボーンさん [オンライン・レビュー・オンライン / US]

どこにでもいる人たち。
彼らの運命の糸は日本で交差する。
その旅は歪ながらも
希望と夢に満ちている。
みんなの生きることへの欲を感じとり、
想像していたよりもリアルな世界が広がっていた。
でもこのリアルをみんなに知ってほしい。

● LiLiCoさん [映画コメンテーター]

街に散らばる、匿名の人々の「たわいのない」人生。
理解しあえなさや断絶を、時にスリリングながらも力の抜けた
視線で描く。隔たりが描かれているのに、それを包み込む
大阪の街の喧騒はなぜか優しい。
「隔離される」という体験を多くの人が乗り越えた今だからこそ、
登場人物たちの孤独と、ほんの少しの救済が全身に染み渡る。

● 小野美由紀さん [小説家]

映画を彩る“COME & GO”な人々、一挙紹介！

シャオカン

李康生 (リー・カーション) ……台湾

台北から定期的に大阪にやってくるAVオタクのシャオカン。
演じているのは、ツイ・ミンリヤンの映画でお馴染みの
リー・カーション。彼が大阪の街を歩いているだけで、
なんかシュールで楽しい。



マユミ

苑丸愛美 ……日本

徳島の田舎からキャリアバッグ片手に大阪へ。
街でスカウトされたAV出演やキャバ嬢のバイトにと
漂いながらも、都会のリズムに馴染めない
不器用な自分を自覚している。
演じるのはヌードモデル・俳優・フォトグラファーと、
多面的な表現で異彩を放つ苑丸愛美。傷くて今にも
流されそうな若い女性の三日間を、等身大の女性像として
見事に表現している。



富岡

千原せいじ ……日本

捜査二課の刑事。中崎町のアパートの一室から見つかった
老女の白骨化死体の真相を探っている。事件の糸を
手繰り寄せると引っかかってくるのは、様々な
バッグボーンの人たち。国籍も人種も使う言語も違う。
仕事一筋で家庭を顧みない彼は、純粋で女性に優しい
ネパールの留学生と妻が深い関係にあることを、
捜査の過程で知ることとなるのだが…。



佳子

渡辺真起子 ……日本

富岡の妻。日本語学校でボランティアとして
教師をしている。生徒名簿の人数に対して、
なぜか授業を受ける生徒の数はかなり少ない。
思いやりのない夫の態度にも、冷静に対処しているが、
密かにネパールの留学生と付き合っている。
演じるのは、『M/OTHER』『きみの鳥はうたえる』
『37セカンズ』などの名演に印象に残る渡辺真起子。
最近ではテレビドラマ『TOKYO MER
～走る緊急救命室～』が話題に。



ナム

リエン・ビン・ファット ……ベトナム

ベトナムからやってきた技能実習生。ミミも務める印刷工場で
働いている。母親の急病の報せに、いすぐにも帰国したいのに、
上司はそれを許してくれない。思い余って職場放棄、脱走へ。
演じているリエン・ビン・ファットは、日本でも公開された
『ソン・ランの響き』の大ヒットでベトナムトップクラスの
人気俳優に。今後は国際的な活躍も期待されている。



ミミ

ナン・トレイシー ……ミャンマー

ファッションを学ぶために、大阪の専門学校へ。
学費を稼ぐため、印刷工場とスーパーマーケットの
バイトを掛け持ちしている。それでも学費が払えない。
バイト先で上司のセクハラにあい、過労でダウンの窮地に。
演じるナンはミャンマーのインスタなど最新の情報を
発信する人気のインフルエンサー&モデル。
日本では森崎ウィンとの共演ドラマも。



電司

尚玄 ……日本

中崎町で今にも潰れそうなAV制作会社を営み、
自ら演出も手がける。街角で徳島から出てきた女の子を
スカウトして、面接もそこそこ撮影を強行。
借金取りが撮影現場に押しかけてきて修羅場になっても、
どこかアリタイがない。
リーや張に持ちかけた仕事も、なんだか怪しい雲行き。
演じているのは、フィリピンの名匠プリアンテ・メンドーサの
最新作『GENSANPUNCH 義足のボクサー』で主演に
抜擢されて大きな話題を集めている、尚玄。



飯田

桂雀々 ……日本

定年退職して、中崎町のアパートで一人暮らし。
例の事件があったのは、彼のアパートの目と鼻の先。
近所がざわつく中、彼は『レンタルおじさん』と
称した便利屋を初めて、近所のバーのママや知人の
雑用をかって出て、そこそこ重宝がられている様子。
しかし息子からはアパートを引き払って、アジア某国の
プチ移住を勧められ、なんだかとても虚しい気分。
桂雀々の飄々とした演技が味です。



ウィリアム

J・C・チー ……マレーシア

クランブルの大手旅行代理店の辣腕営業マン。
ハンサムで、紳士かつ誠実な人柄は、誰からも信望が厚い。
家族をとっても大切にしている。そんな彼が
大阪の街ですれ違った日本の女の子。
傷けた彼女が気になって仕方がない。
J.C.チーは、マレーシアならずアジア各国で
活躍するトップスター！



モウサム

モウサム・グルン ……ネパール

中崎町のカフェで働きながら、日本語学校に通う苦学生。
でも生来の明るい性格が人を惹き付ける。その魅力に気づいたのが、
富岡の妻・佳子。彼女のために作ってきた手作り弁当に
心を鷲掴み。しかしカフェの勤定が合わない、と、
店主からあらぬ嫌疑をかけられて…。
演じているモウサム・グルンは、ネパールの国民的民謡歌手。
映画の中でも美声を披露している。



ケンジ

望月オーソン ……アメリカ

日本人の母とアメリカ人の父を持つハーフ。
広島島の呉から大阪に出てきたが、これといった定職にも就かず、
勤務先の車庫には遅刻することもしばしば。
上司からは何度もクビをちらつかされている。
日本の中で軽視されてきたハーフの人たちの苦悩、
生まれながらに抱えて来た心の痛み。内に秘めた滾るような
怒りを静かに表現した望月オーソンの好演が光ります。



リー

イ・グァンス ……韓国

釜山で風俗嬢をスカウトしては、大阪に
連れて来てひと儲けを企てるブローカー。
日本の様々なAV業界に顔がきき、
資金のやり取りはかなりのやばい。
AV監督の電司から持ちかけられた美味しい
話に張良とともにいっちょ嘸みしてるけど、
はてさて…。



張良

デイヴィッド・シウ ……香港

香港人。中国化された香港がいつそう
住みづくなり、日本人妻と幼い娘を連れて
大阪に移住してきた。
娘の学費を稼ぐため、中国人観光客の
ツアーガイドをしながら、家族にも
言えない怪しい仕事に手を染めている？

